

2020 年度星槎大学大学院 シラバス

科目名 教育のユニバーサルデザイン特論 (R2 認定通信)	単位数 4 単位	担当教員 阿部利彦
<p>テキスト</p> <p>(1) 阿部利彦 (2017) 『通常学級のユニバーサルデザイン・スタートダッシュ Q&A55』 東洋館出版社</p> <p>(2) 阿部利彦 (2015) 『通常学級のユニバーサルデザイン・プラン ZERO 2 授業編』 東洋館出版社</p> <p>(3) 柘植雅義 (2014) 『ユニバーサルデザインの視点を活かした指導と学級づくり』 金子書房</p>		
<p>科目の概要</p> <p>教育のユニバーサルデザインとは子どもたちにとって分かりやすく、学びやすく配慮された教育のデザインである。そして、さまざまな学びや行動につまずきを持つ子が、通常学級の日常において学習や活動に興味を持ち、新たに視野を広げられるような工夫である。通常学級にいるさまざまな困難や支援ニーズを持つ子どもをも支える授業づくり、学級づくりの概念について検討するとともに、ユニバーサルデザインに関わる教育の動向に関して考察する。</p>		
<p>I 科目の目的・ねらい</p> <p>1 教育のユニバーサルデザイン化について理解する</p> <p>2 教育のユニバーサルデザインと主体的・対話的で深い学びとの関連性を理解する</p> <p>3 授業のユニバーサルデザインの考え方をいかした授業実践について考える</p>		
<p>II 授業計画と評価</p> <p>第 1 回 ユニバーサルデザインとは何か</p> <p>第 2 回 障害者基本法からみたユニバーサルデザイン</p> <p>第 3 回 合理的配慮・基礎的環境整備とユニバーサルデザイン</p> <p>第 4 回 インクルーシブ教育と授業づくり・学級づくり</p> <p>第 5 回 学び手のつまずきを想定する</p> <p>第 6 回 教育のユニバーサルデザインとは</p> <p>第 7 回 授業のユニバーサルデザイン～視覚化、焦点化、共有化の視点で</p> <p>第 8 回 授業のユニバーサルデザイン～5つのテクニック</p> <p>第 9 回 各教科における授業のユニバーサルデザイン</p> <p>第 10 回 教室環境のユニバーサルデザイン</p> <p>第 11 回 人的環境のユニバーサルデザイン</p> <p>第 12 回 共感を高める学級づくり</p> <p>第 13 回 学びのユニバーサルデザイン (UDL)</p> <p>第 14 回 授業のユニバーサルデザインと ARCS モデル</p> <p>第 15 回 ペア、グループ演習における配慮</p> <p>科目修得試験</p> <p>評価 レポート 50%、科目修得試験 50%の割合で行う。</p>		

参考文献

阿部利彦 (2017) 『決定版！授業のユニバーサルデザインと合理的配慮』 金子書房

その他 特記事項なし